

DNAマーカーを用いた園芸植物の品種改良

研究者	農学部	生物資源 学科	主な経歴	博士(農学)(京都府立大学) 京都府農業資源研究センター 研究員 名城大学農学部
	名前	津呂 正人 教授		
	TSURO MASATO		所属学会	園芸学会、育種学会、生物環境工学会、 味と匂学会
専門分野	園芸学			

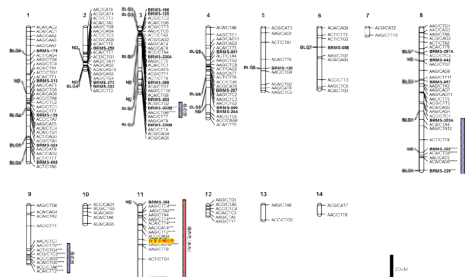


2 飢餓をゼロに

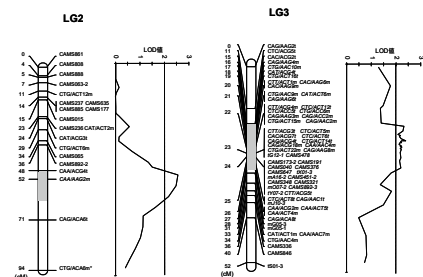
キーワード 野菜、花き、品種改良、DNAマーカー

DNAマーカーとは、染色体上の目印のようなもので、親から子へ遺伝します。このDNAマーカーのうち、花の色のように目に見える形質や病害抵抗性といった農業上重要な形質と連鎖関係(すなわち、まったく同じように遺伝する)にあれば、将来備わる形質を極めて早期に判別でき、育種年限を大幅に短縮できます。我々は、園芸植物の染色体物理地図やDNAマーカーの開発を行っています。

染色体物理地図の構築



例えば ダイコンの染色体物理地図の作製



例えば トウガラシ青枯れ病抵抗性遺伝子の特定

園芸植物の分離集団(基本はF2)を作成

AFLPやRAPDなど汎用マーカーを大量に用いて高密度連鎖地図を作成

また、SSRマーカーの開発も行うことが可能
他の集団でも利用可能な地図の作成

重要な形質(色や病害抵抗性など)に連鎖するマーカーの選抜とSTS化

他品種に適用可能なDNAマーカーの開発と新品種の育成